

# 会 議 要 録

|  |  |
|--|--|
| 会議の名称  | 酒田市芸術文化振興計画（仮称）検討委員会（第1回）  |
| 開催日時   | 平成29年6月23日（金） 午後8時 ～ 午後9時  |
| 場所   | 酒田市総合文化センター 412号室  |
| 出席者  | <p>○アドバイザー<br/>帝塚山大学名誉教授 中川 幾郎 氏</p> <p>○出席委員<br/>工藤 幸治 委員、関矢 順 委員、田中 章夫 委員<br/>土田 貴文 委員、五十嵐 真生 委員、<br/>佐藤 百恵 委員、石井 諭 委員、<br/>白旗 定幸 委員、大数見 貴子 委員</p> <p>○オブザーバー<br/>村上教育長</p> <p>○事務局<br/>菅原教育部長<br/>（社会教育文化課）<br/>阿部課長、阿部補佐、杉山主査、小松主査兼係長、<br/>中里調整主任、浅井主任</p> |
| <p>1 開会（事務局）</p> <p>2 あいさつ（村上教育長）</p> <p>3 アドバイザーあいさつ<br/>酒田のアイデンティティを磨きぬくためにもこの計画は大事。アイデンティティには4つの意味がある。変わらず主張し続ける連続的自己同一性、酒田が持っている社会的<br/>位置づけやあり方を示す対目的同一性、外部に向かって酒田はこんな街だよと説明できる<br/>対他的同一性、人々の心の中に酒田がどういったイメージがあり、それを誇り、縁<br/>（よすが）とする心理的同一性である。これを頭に入れて、酒田に対するお知恵をいた<br/>だければと思う。</p> <p>4 検討委員自己紹介</p> <p>5 協議<br/>（1）現状と課題について</p> |  |

## 事務局

芸術文化に関する法律には文化芸術振興基本法と劇場音楽堂の活性化に関する法律の2つの法律がある。平成27年5月に閣議決定された第4次基本方針は2020年に開催される東京オリンピックに向けた文化振興について国の方向性を示している。これらについては配布資料を参考に。現状と課題は事務局でたたき台としてあげたもの。参考までにご覧いただき、皆様が活動中で感じていることを率直にお聞かせ願いたい。

## 委員

酒田市も人口減少、若者の流出で文化の持続に非常に問題が出ている。若い人に酒田に誇りを持ってもらうために、小中学校在学中に酒田の文化施設を利用してもらうということを優先して取り組んでいただきたい。

## 委員

私は若い人の意見を代弁できる立場。酒田にある資源に興味を持っている人が私の知人・友人の中では関心度が低い。どうやってアプローチできるのかというのを考えていきたい。

## 委員

私はIターン。高校生の前で話したときに、改めて酒田の良さに気づかされたという意見をいただいた。私も希望ホールのダンス事業で、自分より少し歳上の人や近い人がやっているのを見てすごいと感じるところがあったので、そういう視点で考えをお伝えできればと思う。

## 委員

芸術活動イコール暇な人、お金がかかるというイメージを持たれるが、生活に密着しているものと少しでも理解してもらえるような活動ができればと思い今回委員に公募した。

## 委員

建築でいえば会社とかホールとかは一番大きなアイデンティティを表す表現形態を持っていると思う。例えば立教大学には大正7年に造られたレンガ建ての校舎があり、学生たちにとってのシンボル像となっている。酒田にとって伝統的なアイデンティティになるものは何なのか。土門拳記念館、酒田市美術館など新しい建物はいいが、本間家や鑑屋など古い建物を残していくのはお金がかかる。酒田なりにどういうステップを踏んでいくか考えていくことで新しい発見が生まれ、やり方が見えてくるのではないかな。

## 委員

私は子どもたちに郷土を知り、郷土を愛し、また自分の故郷に戻ってきたいという子どもたちをどう育てていくか、授業や学校生活の中で考えながら仕組んでいる。それがこの事業と少し似ているかなと思う。市民に酒田のアイデンティティって何？と問いかけをしながら固めていく。そのために色んな方々の意見やお知恵を拝借して、どう繋いでいけば形になるか自分なりに意見を出せると思う。

## 委員

社会人になると人との繋がりやコミュニケーションが薄れていく。しかし、趣味で音楽や写真をやっている人とコミュニケーションができてくる。それが芸術の特権だと思う。そして現状と課題をどう分析していくかが一番重要。酒田市の芸術を通じた街づくりができていけばいいと思っている。

## 委員

最近新しいホールが出来ても足を運んでくれる若い人、特に子どもたちが少ない。今年は酒田市出身の芸術家を招いて、話や演奏をしてもらおう企画を組んでいるので、そこで自分もあんなりたいという気持ちを持ってもらえればと思う。今年はそういった育成事業を行って若い人たちにホールに足を運んでもらえるよう頑張っていこうと思っている。

## 委員

誇るべき町、愛される町、愛していく町をモットーに「酒田愛」という言葉を提言したい。また、芸術文化への意識を育てなければならない。美術館やコンサート、カルチャーセンターなどをどのように魅力あるものにしていくか、新聞を読むといったような日常生活の中で芸術性・文化性に繋がっていく心を小さいうちから育てていくことが課題。市民と行政サイドが両輪をもって推進していく重要性を感じている。

## アドバイザー

いただいたご意見の中から指針となるものが多く出ている。皆さんからご意見を。

## 委員

今日の資料には酒田市芸術文化振興運営方針、文化芸術振興という言葉もある。同じと考えていいのか。

## アドバイザー

文化芸術振興基本法という法律ができたときに2つの法律原案が合体してできあがってしまったので、このように言葉が捻じ曲がったのだと批判してきた。私は芸術文化で正しいと思っている。

## 委員

逆にどんなことを聞きたいか。こういうことが聞きたいとかそういうのがあれば教えていただきたい。

## アドバイザー

若い人たちに聞きたいのは、どうしたら若い人たちが参加しやすくなる気になるかなということ。私は滋賀県の文化審議会のメンバーなのだが、若いアーティストが美術展等に参加しない。現場で若いアーティストにヒアリングをして原因を追求したら、アーティスト間の世代落差があった。その落差を前の世代が認識していなかったために彼らを除外してしまっていた。そこで、若手アーティストだけを対象としたものやってみたら動き出した。彼らが教えてくれた。だから批判するだけではなく、そういったヒン

トを教えてほしい。

#### 委員

土門拳記念館は代表する施設だと思うが、20代の人がほとんど行っていない。SNSが広まって、みんなが写真を投稿している今、フィルムの時代よりも写真への関心があるはずなのに、全国に誇る土門拳記念館には行かないというのは、Webの発信などSNSがひとつヒントなのかという気がする。

#### アドバイザー

理由をもっと考えなければならない。

#### 委員

土門拳は素晴らしい人であるが、外部に発信する形になっていかないというのがひとつあると思う。例えば吹奏楽でもユーチューブなどで音源を出して発信しているところは知名度が上がっていく。どういったものを使って発信していくかが我々の課題なのかなと思っている。

#### 委員

今の学生は非常に忙しい。それと出かけていくのが面倒くさい、お金がないというのをよく聞く。学校でも酒田の文化施設に連れて行くということはやっていない。まずは小学生から一回でも日和山や美術館、鑑屋をまわる機会をつくれれば興味を持ってくれると思う。1回も行ったことがない人は大人になっても興味が湧かない。そうやって外部から来た人たちに酒田を伝えられる土壌ができれば素晴らしい。

#### アドバイザー

今の件は重要な点検項目。学校側としては難しいかもしれないが、目標として子どもたちが小学校もしくは中学校卒業までに酒田市内の美術館、博物館、歴史文化施設をすべて回り終える状態にしていくことは目標にならないだろうか。

#### 委員

中学校の美術、音楽の授業数は年間30時間の週1回。この週1回の1時間を捻出するために東部中なら行き帰り3時間をつぶさなければいけない。石黒光二さんが松山文化伝承館で個展を開いた時は、全校生徒を連れて行きたいと思い1時間のプログラムで実現できた。子どもたちは想像するより飽きずにじっと作品を鑑賞していた。しかしその機会をカリキュラムの中でやるのは非常に難しいこと。

#### 委員

今の話は非常に良い。本物が発信するパワーは小さな子どもでも分かるのだと思う。小さいときにしか磨けない感性。小学校、中学校、高校のときに本物を見るということは非常に重要。そしてもうひとつやってほしいのは、作品の作家の先生に語ってもらい、人間性に触れてもらうこと。また、今年の希望音楽祭に関して、ただ市原多朗が歌うだけでなく、市原多朗が吉野弘を歌うなど横串を刺していくことも必要だと思う。

#### 委員

今のご意見はもっともなこと。今年自主事業は挑戦して前向きな事業をやってくれる。

## 委員

本間美術館でも本物の体験、作家に語ってもらう企画は行っている。予算の制約があり各企画展ではできない。やった折には若い人から来てもらいたいと一番思うし、何よりも市民から見ていただきたい。しかし、オーソドックスな美術展は予算をかけたわりに人が集まらない。いかにして企画の思いや目的を周知するか。また、酒田は非常に歴史があるので、文化や芸術資産の掘り起こしも大事にしていかなければならない。古い、後継者が育たないなどあると思うのでひとつひとつ精査し、残さなければならぬものは重点的に考えていく機会にしたい。

## アドバイザー

ポイントとして、小中学校に対するアウトリーチ事業というのが題としてあがっているが、学校側がセレクトできるようなアウトリーチ事業に発展させられないか。狂言師、演劇、演奏家、声楽家などレパートリーの中からセレクトできるような。市原多朗さんのアウトリーチ事業でいえば、酒田の生み育てたアーティストという部分とアウトリーチで重複している。そうではなく、アウトリーチを先方がもう少し選べるようにした方が学校側も選択の幅が広がると思う。もうひとつの問題はそれをコーディネートする業務が必要なこと。アーティストが子どもたちにどう説明したらいいかわからないときに、それを翻訳してあげる仕事が必要になってくる。

子どもの時に少しでも味わったという体験を植えつけるような仕組みができれば、彼らが大人になった時にお金を払って誘う側に回ってくれる。将来の地元のタックスペイヤーを育てていくという戦略に位置づける。そして外から来る人にはもっとお金を落としてもらうという多層的な戦略を今出した方がいいと思う。

## 委員

毎年やろうとするから予算的にも大変になる。3年に1度ならどこかの学年である。そういうことも考えていった方が良い。

## アドバイザー

びわ湖ホールの子事業も6年生で卒業するまでに1回ということで達成感があつた。

## 委員

昨年度の酒田市内の全5年生に狂言を経験させたのは、前向きな素晴らしいケースだと思う。

## アドバイザー

そのための資金をどのようにして獲得するかという提案をいただきたい。例えばふるさと納税を使えばよいと思う。子どもたちに酒田の素敵な伝統やアートに触れるための枠を作ってもらえるよう財政当局に提案してみてもどうか。

## 委員

学校に展示する作品を持って行って展示するのは可能か。地域の保護者も足の悪い方も行きやすくなる。夜間の管理や盗難対策などの問題が出てくるので現実的ではないかもしれないが、学校で展示したら面白いと思う。

## 委員

前に山形県で絵画作品のレプリカを何セットか用意して学校で展示する巡回美術展をやったときがあった。子どもたちはレプリカだと言っても一生懸命見ていたので、本物を見るという経験はすごく大事だと思うし、そのような機会をひとつでも設けられたら最高に良い。

## アドバイザー

作品のアウトリーチ、巡回もひとつのアイディア。今日は大分材料をいただいた。引き続き皆さんよりご意見いただけたらと思う。

アンケート調査について、ホールの事業だけでなく生涯学習関連も含めた芸術文化事業を取り上げなければならないのでは。一覧表にして皆さんに見せることは可能か。そうしないと事業が見えないまま理想論を語る危険性がある。見せることによって色んなアイディアが出てくると思う。

## 委員

各旧町もアンケート取らないと。公民館的なものはどうするかというのが酒田市の大きな課題だと思っている。

## アドバイザー

まったくその通りで、美術では生涯学習が果たしている役割は結構大きい。文学はほとんど生涯学習施設でしかやっていない。生涯学習分野まで裾野を広げて調査しないと全容が見えないと思う。役所が頑張ってるのに何で効果が出ないのか、実態を踏まえたうえで議論をするということと、実態を踏まえたうえでの基本計画であることが大事だと思うのでお願いしたい。

アンケート調査に関しても各地域の偏差も分析できるように。それから世代ごと、性別ごと、分野ごとにある程度把握できるように考えたい。いつも言っている○△□の分析。サンプルは2,000。回収数4割5分くらいあれば一定のケースとして信頼性があるかと思う。

### (2) アンケート及び文化団体等のヒアリングの実施について（事務局）

本日皆様からお聞かせいただいた現状と課題をもとに、中川先生と打ち合わせをする予定。7月には市民2,000人を対象としたアンケート調査と文化施設や文化団体へのヒアリングを実施し、8月中にはまとめた。

### (3) その他

なし

6 その他

(1) 今後のスケジュールについて

第2回検討委員会 平成29年8月29日(火) 午後7時～9時  
酒田市総合文化センター4階 412号室

第3回検討委員会 平成29年11月20日(火) 午後7時～9時  
酒田市総合文化センター4階 412号室

7 閉会